



平成28年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年11月10日

上場会社名 株式会社エーワン精密 上場取引所 東
 コード番号 6156 URL http://www.a-one-seimitsu.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也 (TEL) 042-363-1039
 四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年6月期第1四半期の業績(平成27年7月1日～平成27年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年6月期第1四半期	471	0.7	130	4.4	133	△0.3	88	0.7
27年6月期第1四半期	467	6.7	124	23.1	134	27.4	88	8.0
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
28年6月期第1四半期	73.97		—					
27年6月期第1四半期	58.78		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年6月期第1四半期	7,732	7,057	91.3
27年6月期	7,934	7,159	90.2

(参考) 自己資本 28年6月期第1四半期 7,057百万円 27年6月期 7,159百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年6月期	—	0.00	—	90.0	90.0
28年6月期	—	—	—	—	—
28年6月期(予想)	—	0.00	—	94.0	94.0

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年6月期の業績予想(平成27年7月1日～平成28年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	992	6.2	279	19.4	291	15.8	191	△8.3	159.31
通期	2,000	4.1	562	12.3	584	16.1	375	△16.0	313.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

28年6月期1Q	1,500,000株	27年6月期	1,500,000株
----------	------------	--------	------------

② 期末自己株式数

28年6月期1Q	300,237株	27年6月期	300,237株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

28年6月期1Q	1,199,763株	27年6月期1Q	1,499,763株
----------	------------	----------	------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、ほぼ横ばいの状態で推移しました。国内製造業においては、堅調な動きをした7月のあと、8月の大手企業の夏期休暇前後に生産活動は一時的に停滞し、また9月にかけては持ち直してきました。ここ数年、国内の大手製造業中心に生産設備の更新や多品種少量生産ラインへの修正などが行われ設備投資に動きが出てきており、加えて中小企業においても設備投資補助金等の政策効果などがあり、新規設備を導入するところが散見され堅調に推移しました。またスマートフォンや自動車等の電子制御用の電子デバイスのコア部品は増産傾向が継続し、国内の設備投資を牽引しました。一方でスマートフォンの筐体加工用工作機械などは、世界の中で主要な生産拠点となっている中国など新興国の景気減速の影響を受け、受注が減少傾向を示しました。

国内製造業全般は、7月は昨年からの堅調な流れを維持していましたが、8月に入り国内製造業の夏季休暇で生産が一時的に落ちたことと、新興国の景気減速などの影響で海外向けの生産が低調となったことなどで機械稼働率が低下し、9月は徐々に持ち直してきましたが、大手製造業の中間期末にあたり予算の関係から設備・試作などの発注を抑え気味にしたことなどで、力強さを欠いた戻しとなりました。

海外に関しては、アメリカは景気好調を維持しており個人消費も堅調で雇用環境も改善傾向を示しています。中国では経済成長率の鈍化が目立ってきており、景気減速により今までの過剰生産による在庫が積み上がって、調整には時間がかかる可能性が高まっています。欧州は落ち着きを取り戻し緩やかな回復傾向となりました。

国内外の景気は強弱入りまじる展開となり、全体として国内景気は横ばいから緩やかな調整局面に入ったと思われます。

このような状況のなかコレットチャック部門では、7月は堅調に推移し、国内製造業の機械稼働率の低下した8月は受注が減少し、9月は機械稼働率が回復傾向となり量産部品加工も一定水準の稼働をしたため、当セグメントの受注もわずかながら増加しました。この結果、当セグメントの第1四半期累計期間の売上高は330,414千円（前年同期比2.4%増）、セグメント利益は165,876千円（前年同期比3.5%増）となりました。

切削工具部門では、7月は量産品、設備・治工具など全般的に動きがあったため一定の受注を確保しましたが、8月は部分的な動きとなり受注は減少し、9月は量産品加工で一定の水準となりましたが、設備・治工具などの戻りが弱く緩慢な回復となりました。この結果、当セグメントの第1四半期累計期間の売上高は131,800千円（前年同期比2.4%減）、セグメント利益は32,878千円（前年同期比3.8%減）となりました。

自動旋盤用カム部門では、7月の量産品加工が堅調に推移したため一定の受注を確保しましたが、8月、9月とユーザー企業の機械稼働率が低下したと思われ、当セグメントの受注も減少しました。この結果、当セグメントの第1四半期累計期間の売上高は9,114千円（前年同期比9.1%減）、セグメント利益は3,588千円（前年同期比7.7%減）となりました。

これらの結果、当第1四半期累計期間の売上高は471,329千円（前年同期比0.7%増）、営業利益は130,137千円（前年同期比4.4%増）、経常利益は133,968千円（前年同期比0.3%減）、四半期純利益は88,751千円（前年同期比0.7%増）となりました。

セグメント別の売上は、以下のとおりであります。

(%表示は対前年同期比)

事業部門別	期別	第25期 第1四半期 (自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)		第26期 第1四半期 (自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日)		第25期 (自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)	
		百万円	%	百万円	%	百万円	%
コレットチャック部門		322	(107.6)	330	(102.4)	1,321	(105.9)
切削工具部門		135	(105.1)	131	(97.6)	556	(105.0)
自動旋盤用カム部門		10	(100.7)	9	(90.9)	41	(94.8)
合計		467	(106.7)	471	(100.7)	1,920	(105.3)

(2) 財政状態に関する説明

(1) 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は、4,185,270千円(前事業年度末は4,561,096千円)となり375,826千円の減少となりました。これは、原材料が1,535千円、製品が1,015千円増加しましたが、現金及び預金が342,888千円、受取手形及び売掛金が26,595千円、繰延税金資産が6,189千円減少したこと等によるものであります。

また当第1四半期会計期間末における固定資産の残高は、3,547,679千円(前事業年度末は3,373,383千円)となり174,296千円の増加となりました。これは投資有価証券が121,751千円、建物及び構築物が10,465千円減少しましたが、長期預金が300,000千円、機械装置及び運搬具が7,424千円増加したこと等によるものであります。

この結果、当第1四半期会計期間末における総資産は、7,732,949千円(前事業年度末は7,934,479千円)となりました。

(負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は、240,879千円(前事業年度末は293,906千円)となり53,027千円の減少となりました。これは、未払金が46,462千円増加しましたが、未払法人税等が80,222千円、役員賞与引当金が9,287千円、その他が8,856千円、買掛金が1,124千円減少したことによるものであります。

また、当第1四半期会計期間末における固定負債の残高は、434,886千円(前事業年度末は481,005千円)となり46,119千円の減少となりました。これは、役員退職慰労引当金が2,250千円増加しましたが、繰延税金負債が37,378千円、退職給付引当金が10,990千円減少したことによるものであります。

この結果、当第1四半期会計期間末における負債合計は、675,765千円(前事業年度末は774,912千円)となりました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は、7,057,184千円(前事業年度末は7,159,567千円)となり102,382千円の減少となりました。これは、利益剰余金が19,226千円、その他有価証券評価差額金が83,156千円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期累計期間及び通期の見通しにつきましては、平成27年8月12日発表の業績予想どおりとなる見込みであります。

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,411,833	3,068,945
受取手形及び売掛金	433,102	406,506
有価証券	500,000	500,000
製品	2,828	3,844
原材料	26,270	27,806
仕掛品	163,687	160,031
繰延税金資産	25,198	19,009
その他	716	1,370
貸倒引当金	△2,541	△2,243
流動資産合計	4,561,096	4,185,270
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	564,939	554,474
機械装置及び運搬具(純額)	549,490	556,915
土地	319,337	319,337
その他(純額)	3,039	2,779
有形固定資産合計	1,436,806	1,433,506
無形固定資産	5,772	5,239
投資その他の資産		
長期預金	1,101,400	1,401,400
投資有価証券	826,750	704,999
長期前払費用	2,605	2,486
その他	626	522
貸倒引当金	△578	△474
投資その他の資産合計	1,930,804	2,108,934
固定資産合計	3,373,383	3,547,679
資産合計	7,934,479	7,732,949
負債の部		
流動負債		
買掛金	14,715	13,591
未払金	117,128	163,590
未払法人税等	119,781	39,559
役員賞与引当金	12,600	3,313
その他	29,680	20,824
流動負債合計	293,906	240,879
固定負債		
退職給付引当金	362,518	351,527
役員退職慰労引当金	70,720	72,970
繰延税金負債	47,767	10,388
固定負債合計	481,005	434,886
負債合計	774,912	675,765

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成27年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	292,500	292,500
資本剰余金	337,400	337,400
利益剰余金	7,087,733	7,068,506
自己株式	△840,686	△840,686
株主資本合計	6,876,947	6,857,720
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	282,620	199,463
評価・換算差額等合計	282,620	199,463
純資産合計	7,159,567	7,057,184
負債純資産合計	7,934,479	7,732,949

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)
売上高	467,938	471,329
売上原価	271,068	271,194
売上総利益	196,870	200,134
販売費及び一般管理費	72,256	69,997
営業利益	124,613	130,137
営業外収益		
受取利息	325	641
有価証券利息	6,076	315
受取配当金	2,353	1,506
その他	1,066	1,368
営業外収益合計	9,822	3,831
経常利益	134,436	133,968
特別利益		
固定資産売却益	79	-
特別利益合計	79	-
特別損失		
固定資産除却損	-	10
特別損失合計	-	10
税引前四半期純利益	134,516	133,957
法人税、住民税及び事業税	47,000	37,800
法人税等調整額	△647	7,405
法人税等合計	46,352	45,205
四半期純利益	88,163	88,751

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期累計期間(自平成26年7月1日至平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	322,823	135,091	10,023	467,938	—	467,938
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	322,823	135,091	10,023	467,938	—	467,938
セグメント利益	160,347	34,160	3,886	198,395	△73,781	124,613

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△1,525千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期累計期間(自平成27年7月1日至平成27年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	330,414	131,800	9,114	471,329	—	471,329
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	330,414	131,800	9,114	471,329	—	471,329
セグメント利益	165,876	32,878	3,588	202,343	△72,206	130,137

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△2,209千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。